



令和8年度 第 1 回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議

母島：2026年6月4日

父島：2026年6月5日

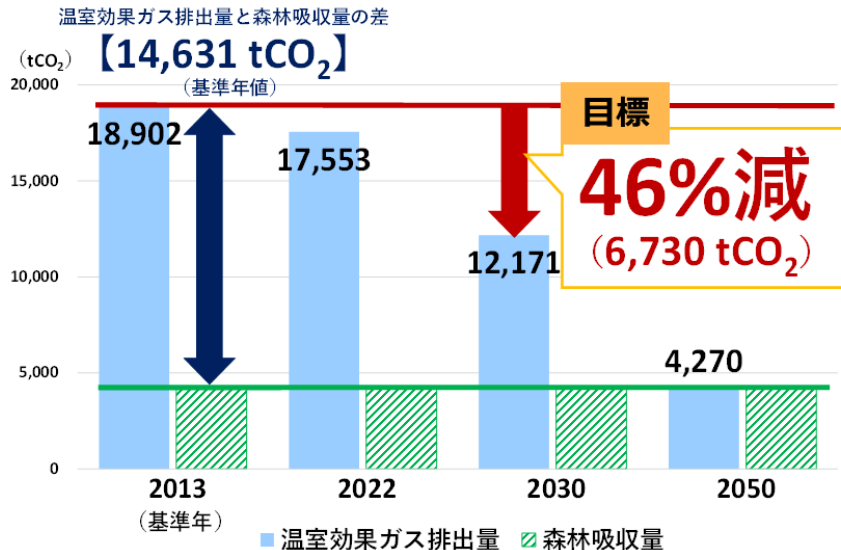
本会議開催の背景

地球温暖化対策実行計画の策定

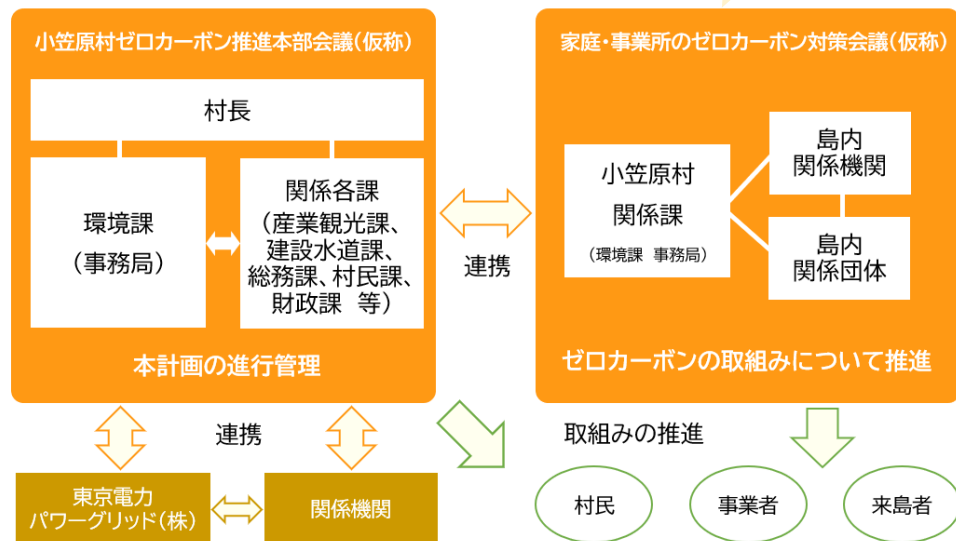
- 小笠原村は2024年3月に温室効果ガスの排出量削減等を推進するための総合的な計画である「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～スイッチおがさわライフ ゼロカーボン大作戦～」を策定しました。

削減目標

2030年に基準年比（2013年度比）**46%削減**
長期的には2050年までに**CO₂排出量実質ゼロ**



計画の推進体制



本会議は、家庭や事業所をはじめとした村民のゼロカーボン活動の推進を行うために、島内の様々な主体の皆さまにご参加いただく会議体として立ち上げられました。

昨年度は村民主体の活動支援などについて議論を行いましたが、今年度は電力使用量測定器を活用した省エネなど、暮らしの中でのゼロカーボンの取組みについて考えます。

令和8年度のスケジュール

- 令和8年度は、みんなで取り組むゼロカーボンチャレンジ補助金の実施や電力使用量測定器活用による省エネ推進の取り組み検討、EV車や生ごみコンポストの活用に向けたワークショップを実施する予定です。

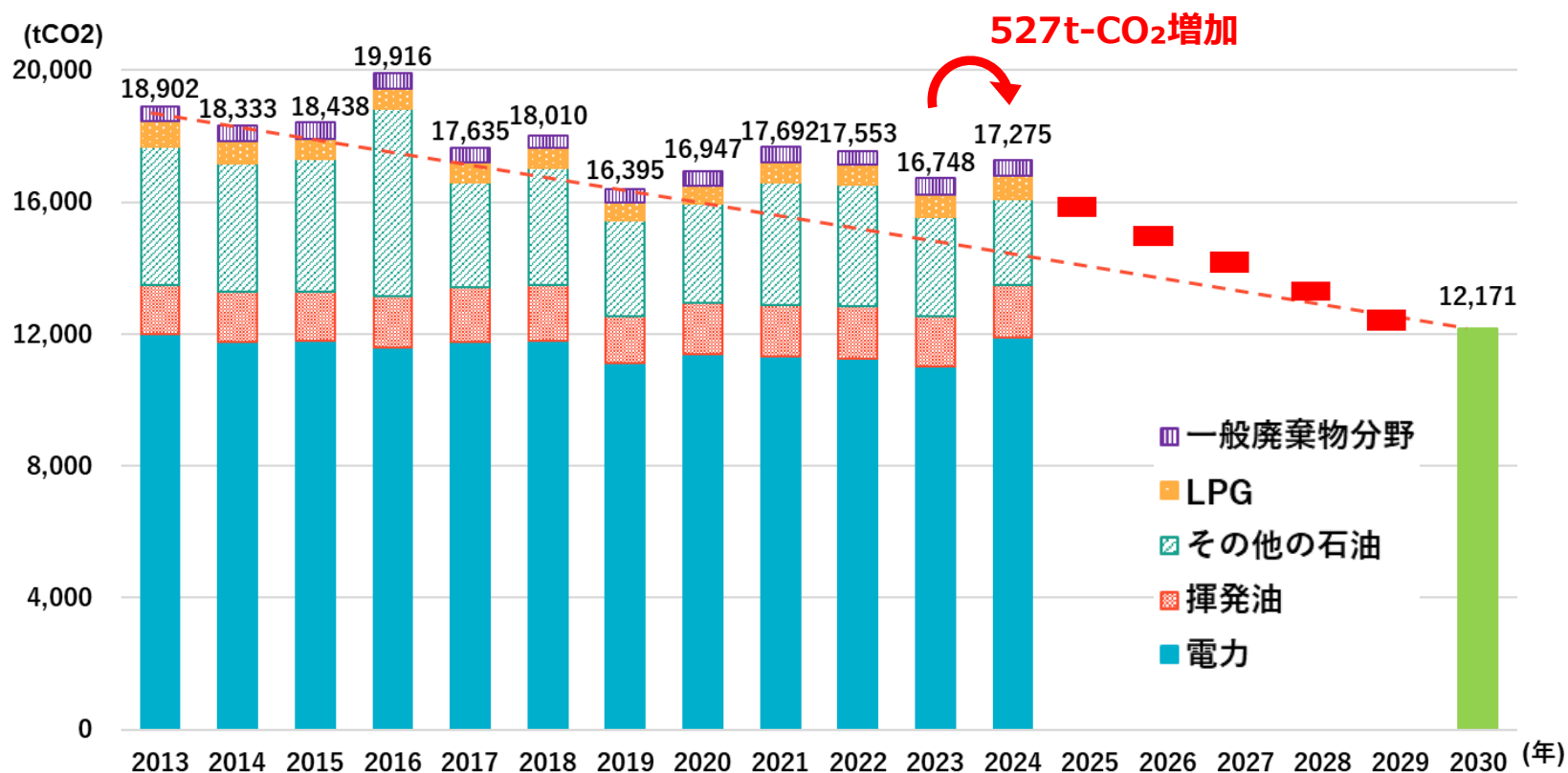
	2026年									2027年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ゼロカーボン推進地域会議			【本日】 第1回（母島） 6/4	第1回（父島） 6/5	第1回のテーマ【本日】 ①排出量推計結果・母島太陽光等の報告 ②電力使用量測定器活用について 電力使用量測定器試用				第2回 12月頃 【父島母島合同開催予定】	第2回のテーマ（予定） ①R8取組結果報告 ②電力使用量測定器活用について ③次年度に向けて		
小笠原村での取組み		報告・意見		ゼロカーボン補助金 一期・申請締切	ゼロカーボン補助金 一期・審査	ゼロカーボン補助金 一期・交付決定通知		生ごみコンポスト ワークショップ	報告・意見	村民だより ゼロカーボン特集号		
電力使用量測定器活用による省エネ推進	職員による活用方法検討	村民向け活用シート（案）の作成	試用結果のまとめ・活用方法検討						村民向け活用シートの作成	村民への貸し出し開始		

1．2024年度の温室効果ガス排出量推計結果について

1. 2024年度の温室効果ガス排出量の推計結果について（1/2）

小笠原村の温室効果ガス排出量の推移

- 2024年度（令和6年度）の小笠原村全体の温室効果ガス排出量は、**17,275t-CO₂**でした。
- これは、基準年度の2013年度（平成23年度）と比べて**1,627t-CO₂**の削減であり、昨年度の2022年度（令和4年度）からは**527t-CO₂**増加しています。
- 削減目標（2013年度比46%削減）の達成には2030年までに**5,104t-CO₂**削減が必要です。目標達成のために、温室効果ガス排出量削減に向けた取組みがより重要になります。



図：小笠原村の温室効果ガス排出量の推移

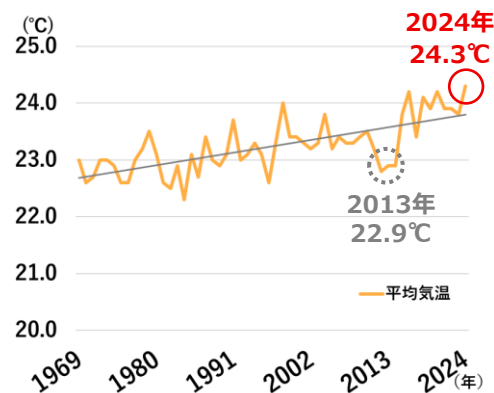
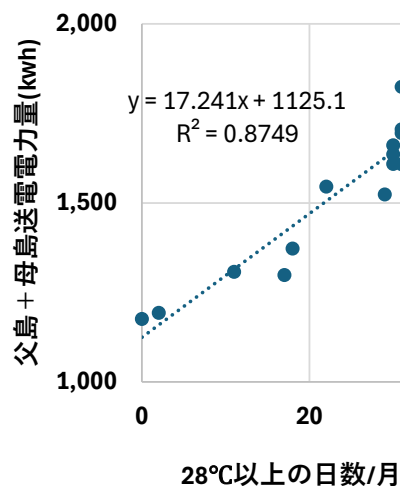
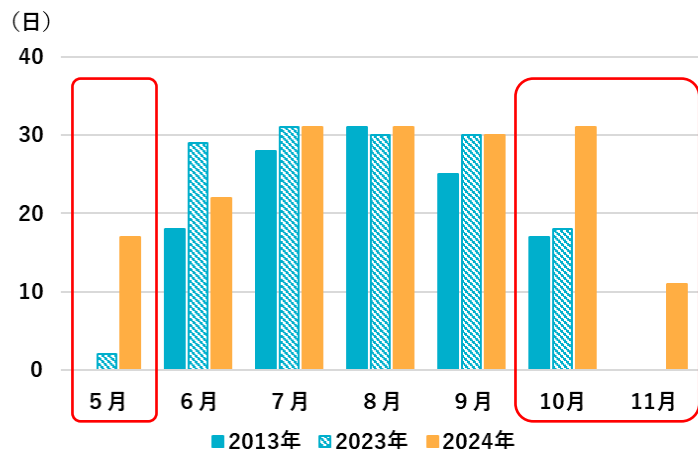
1. 2024年度の温室効果ガス排出量の推計結果について (2/2)

小笠原村の温室効果ガス排出量の推移

- 2023年度と比較して2024年度の温室効果ガス排出量が増加した要因の一つとして、暑さの影響により空調設備の使用量が増加したことが考えられます。

2024年度は5月、10、11月も暑い日が多く、
例年よりエアコン使用時間が長かったと考えられます。

2024年は、平均気温が過去最高でした。
全体的にも気温が上昇傾向にあります。



図：最高気温が28℃以上になった日数（父島）

図：年平均気温の推移（父島）

【中央図：参考】送電電力量と28℃以上の日数との相関は比較的高いと言えます。
(2023,2024年の5月～11月データより)

⇒暑さが厳しい中で健康で快適な暮らしを守るためには、空調設備の使用が必要です。
温室効果ガス排出量を減らしていくためには、無理に使用を控えるのではなく、
省エネや効率的な設備利用を進め、暮らしに無理のない形で取り組むことが大切です。

2.一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進捗について

2. 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進捗について

●小笠原村は2026年3月に、一般廃棄物（ごみ）を適正かつ効率的に処理するための基本方針となる「小笠原村一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を策定しました。

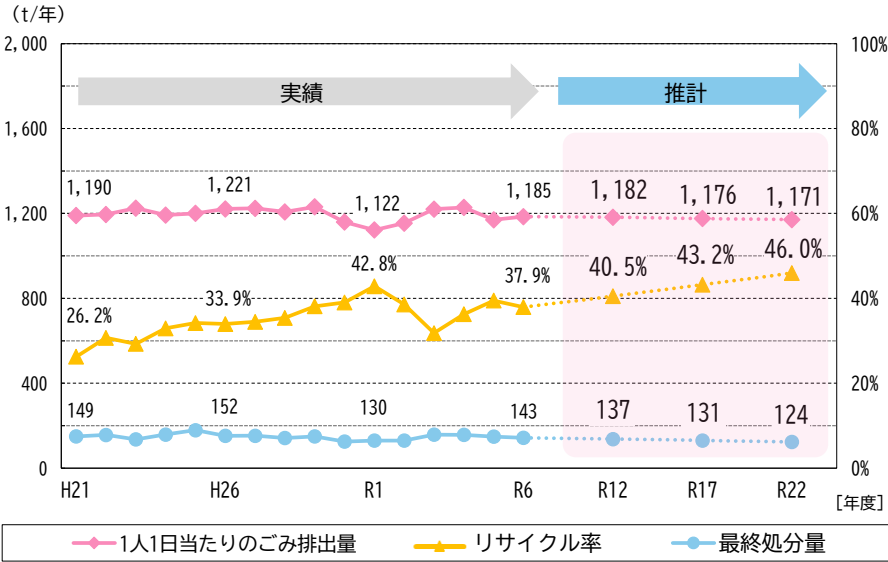
ごみ減量化・資源化目標

●計画目標年度（令和22年度）までに以下の達成を目指します。

- ・ 1人1日当たりのごみ排出量： **1,171g/人・日**（令和6年度比で約**1.2%減**）
- ・ リサイクル率： **46.0%**（令和6年度比で約**8.1%増**）
- ・ 最終処分量： **124t/年**（令和6年度比で約**13.5%減**）

指 標	単位	基準年度	中間目標年度		計画目標年度
		令和6年度 実績値	令和12年度 目標値	令和17年度 目標値	令和22年度 目標値
1人1日当たりのごみ排出量	g/人・日	1,185	1,182 (0.3%減)	1,176 (0.8%減)	1,171 (1.2%減)
リサイクル率	%	37.9%	40.5% (4.2%増)	43.2% (7.0%増)	46.0% (9.7%増)
最終処分量	t /年	143	137 (4.0%減)	131 (8.6%減)	124 (13.5%減)

※（ ）内は、基準年度（令和6年度）に対する増減率を示します。



粗大ごみ有料化の検討状況について

●粗大ごみの収集・運搬・解体等に要する処理コスト等を踏まえ、粗大ごみの有料回収システムの導入を検討します。

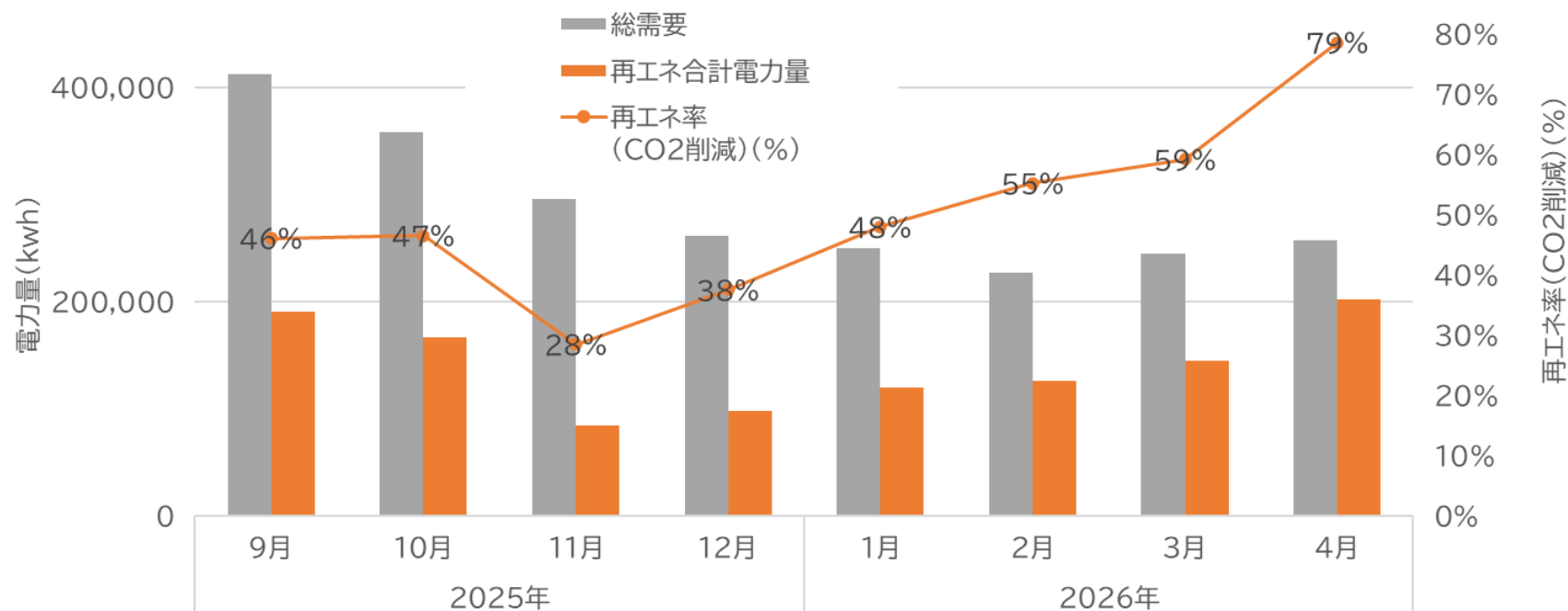
3.母島太陽光発電所の発電状況について

3.母島太陽光発電所の発電状況について（1 / 2）

- 自然と調和したサステナブルアイランドの実現、再生可能エネルギーのみでの電力供給を目指して、東京都・小笠原村・東京電力パワーグリッドの3者が連携して事業が行われています。
- 2025年8月29日から、3年間の実施を想定した実証事業を開始しました。

実証実績（再エネ率の推移）

- 稼働後、追加工事や設備調整に伴う一時的な停止、天候不順の影響などにより月ごとの変動はありましたが、全体としては順調に運用されています。
- 稼働後から現時点まで（2025年9月～2026年4月）の再エネ率は平均49.1%と高水準であり、母島の電力消費を支える再生可能エネルギーとして順調に活用されています。

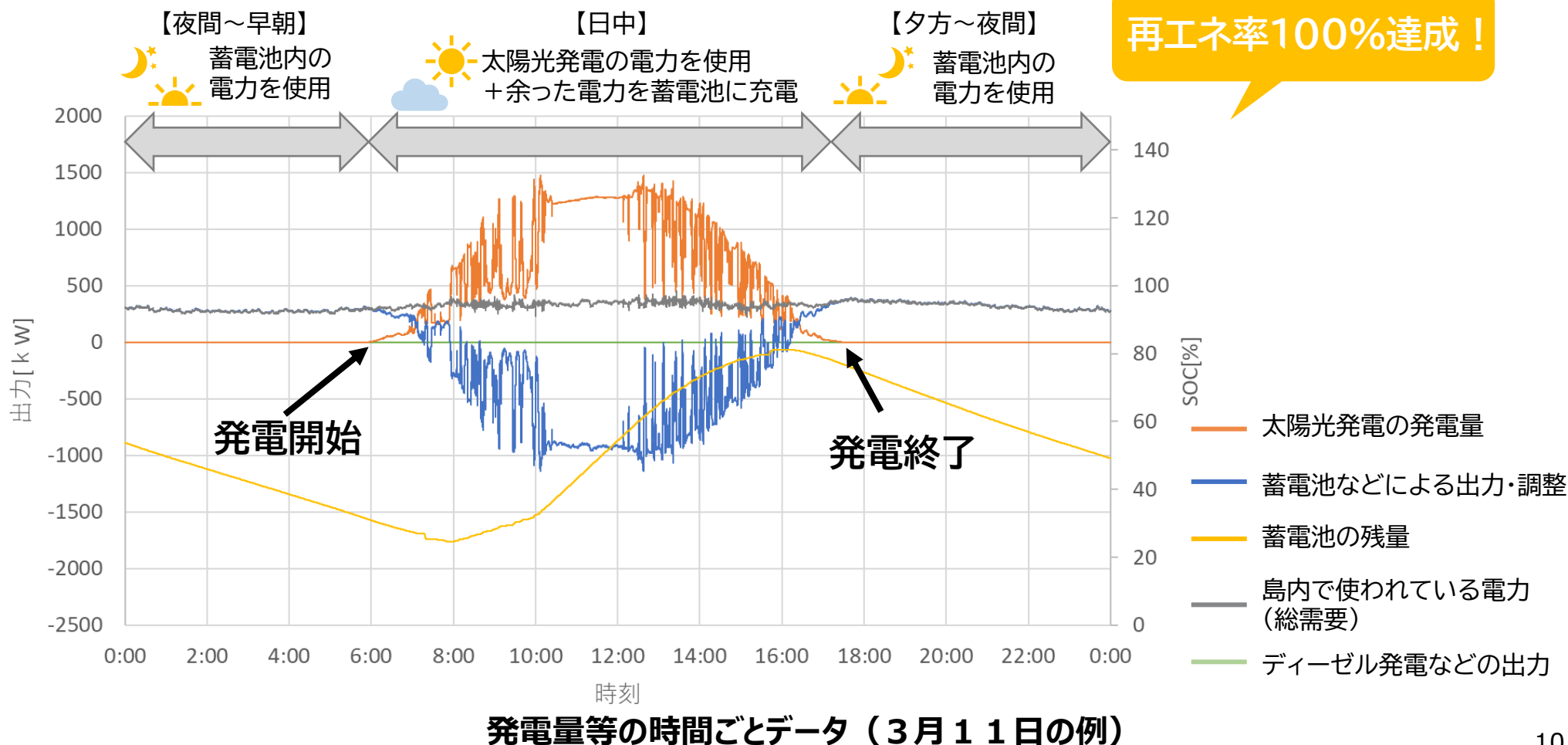


総需要・再エネ電力量と再エネ率の推移

3.母島太陽光発電所の発電状況について（2 / 2）

実証実績（再エネ率100%達成の例）

- 天候が良く、電気の使用量が比較的少ないなど条件が整った日には、太陽光発電と蓄電池を活用することで、1日を通して島内の電力需要をまかなえる場合があります。
- 2026年3月には5日間、4月には4日間再エネ率100%を達成しました。



4.みんなで取り組むゼロカーボンチャレンジ補助金について

4.みんなで取り組むゼロカーボンチャレンジ補助金について（1 / 2）

- 昨年度、制度検討を行った「ゼロカーボン推進活動支援補助金（案）」について、「みんなで取り組むゼロカーボンチャレンジ補助金」として、募集を開始しています。

募集の概要

○対象者

村内に在住し、村内で活動する3人以上の団体（グループ・非営利団体）

○補助金の対象となる活動

- （1）日々の暮らしや事業活動における省エネルギーの推進に寄与する活動
- （2）ごみの減量やリサイクルの推進に寄与する活動
- （3）移動の脱炭素化に寄与する活動
- （4）観光客によるゼロカーボンの取組推進に寄与する活動
- （5）ゼロカーボンの普及啓発に寄与する活動
- （6）その他この要綱の目的に適合する活動

※ 地域に広く効果がある内容であり、
村民が主体となり村民に行動を促す内容であること。

※ 新規性のある取り組みであること。
（1団体1回/年度まで。同一の団体で同一の内容の場合は対象外。）

○補助金の対象とする経費と補助額・補助率

上限20万円（定額補助）

補助対象：報償費・旅費（視察や打合せ等は対象外）・消耗品費等・燃料費・印刷製本費・通信運搬費
・ボランティア等保険費・使用量や賃借料・備品購入費などの広報・イベント運営等に必要な具体的な活動費用

○募集期間

第1期 令和8年6月30日（火） 17時まで （交付決定予定 7月末）

※交付決定額が予算額に達した時点で募集を終了する場合があります。

支援の対象とする活動のイメージ

【村民による自発的・継続的な活動】

・特定の品物を回収・資源化する取組みを進める際の初期費用や活動費の支援

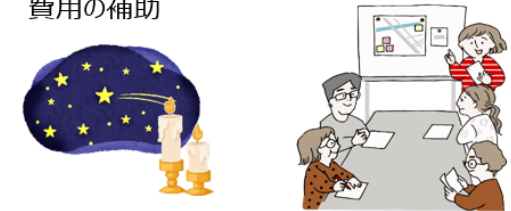
など



【ゼロカーボンの普及啓発に係るイベント】

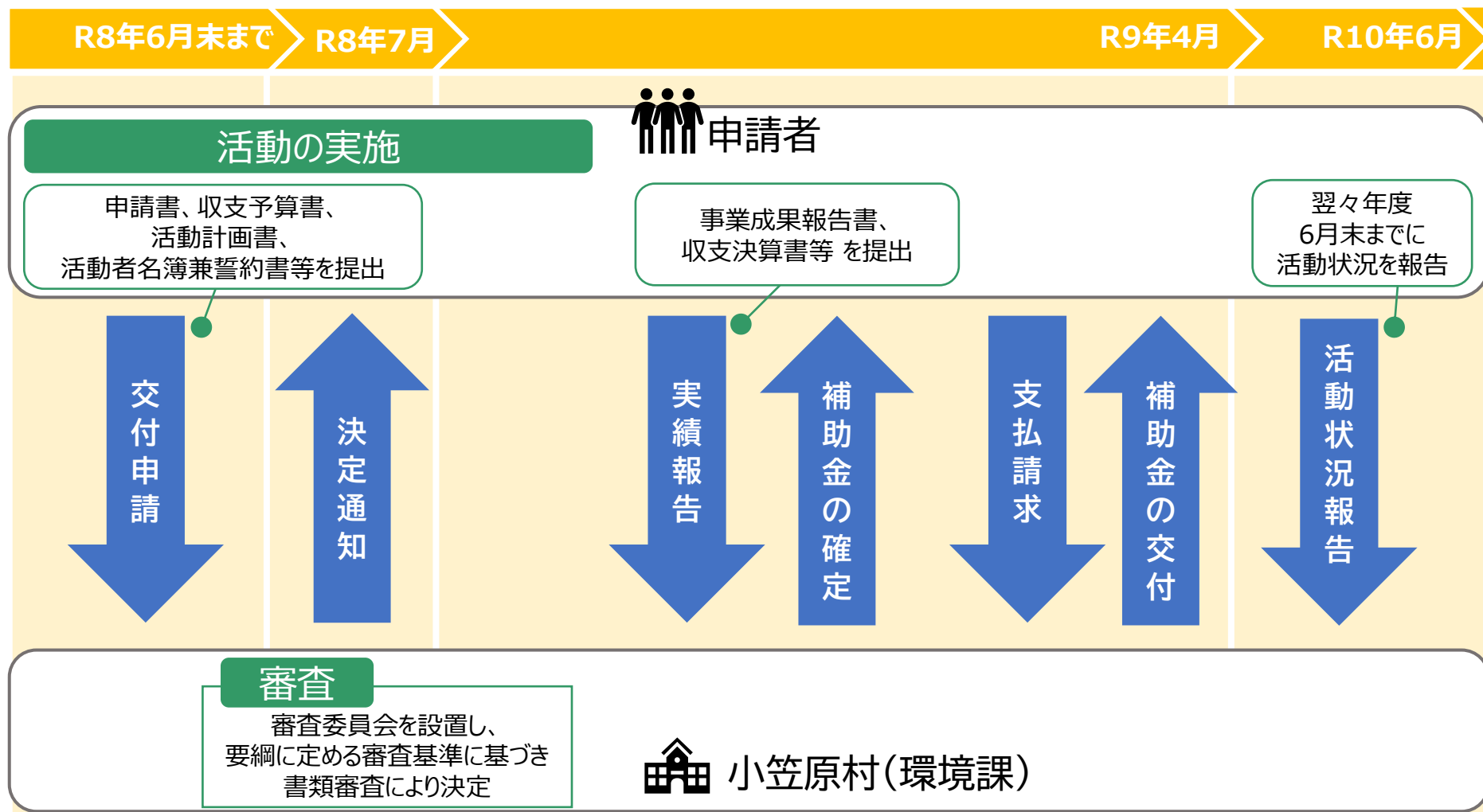
・ゼロカーボンの普及啓発に係るイベント（ライトダウン、ノーカーデー等）や講座等の開催費用・運営費用の補助

など



4.みんなで取り組むゼロカーボンチャレンジ補助金について（2 / 2）

補助金申請の流れ



※ 第1期（申請期限：令和8年6月30日）で申請を行った場合のスケジュールを示しています。

※ 概算払いを希望する場合は、先に補助金の交付を行い、活動実施後に精算します。

※ 年度内の活動であれば実施後の交付申請も可能です。ただし、審査を通らないと補助金は交付されません。

5.電力使用量測定器活用による省エネ推進について

5.電力使用量測定器活用による省エネ推進について（1/4）

- 小笠原村では、ゼロカーボンに向けた取組みの一環として村民への電力使用量測定器の貸し出しを検討しています。

目的

電力使用量測定器を使用して日常で使用している家電製品の電気使用量の見える化を図ることで、ライフスタイルを見直し家庭や事業所の省エネを推進することを目的とします。

電力使用量測定器とは

電力使用量測定器は、家電製品の電気代や使用電力量、CO₂排出量等が測れる簡易型電力量表示器のことです。コンセントに差し込み、家電製品につなぐと、使用した電気料金・使用電力量・CO₂排出量・1時間あたりの電気料金の目安などを確認することができます。

貸出予定の電力使用量測定器機種

【ET30D 節電エコチェッカー】

- 消費電力・使用時間・CO₂ 排出量
1時間あたりの電気料金などが
本体画面で確認可能

※エアコン、クーラーには使用不可



【Tapo スマートプラグ】

- スマホ等のアプリ上で消費電力の確認、
消費電力予測が可能
- 遠隔操作・音声コントロールで家電ON/OFFが可能
- Bluetooth・Wi-Fi
・Alexa等のスマートホーム連携サービス対応



【KOZUMUMAN節電エコチェッカー】

- 消費電力・使用時間・CO₂ 排出量・
1時間あたりの電気料金・電流・
電圧などが本体画面で確認可能



【SwitchBot プラグミニ】

- スマホ等のアプリ上で家電の電流・電気出力
・使用時間などを確認可能
- 遠隔操作・音声コントロールで家電ON/OFFが可能
- Bluetooth・Wi-Fi
・Alexa等のスマートホーム連携サービス対応

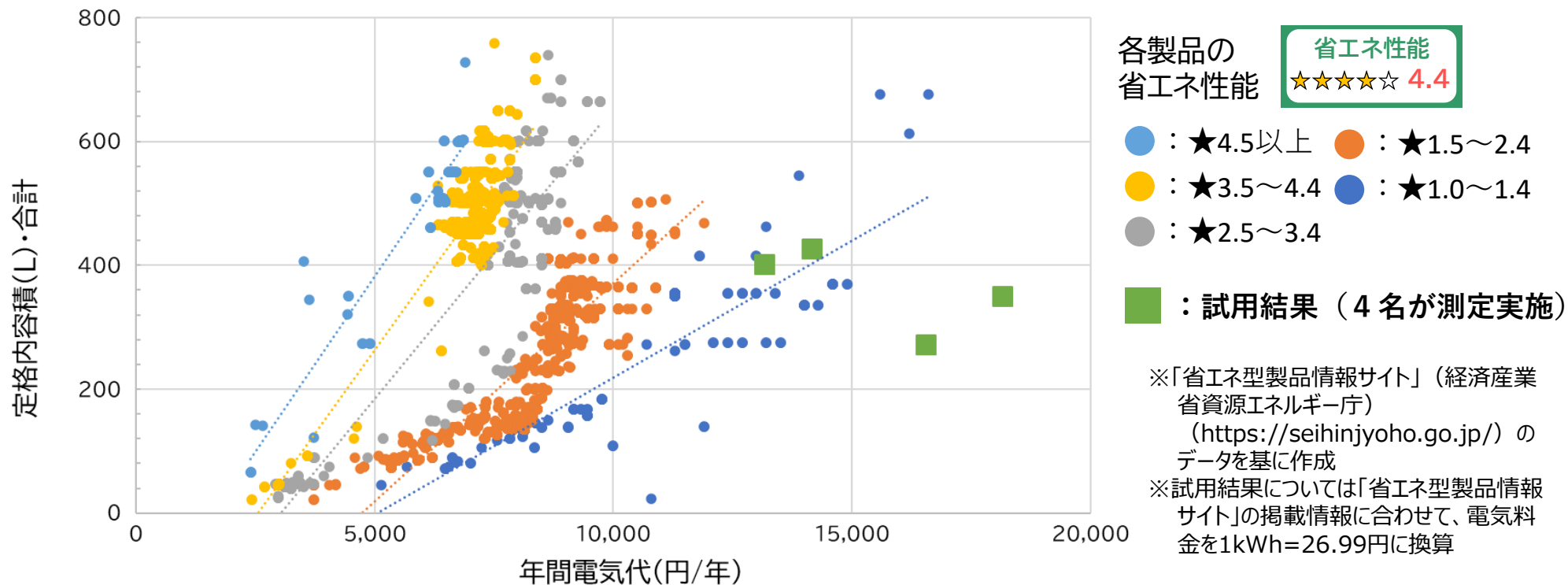


5.電力使用量測定器活用による省エネ推進について（2/4）

●小笠原村環境課職員による電力使用量測定器の試用結果について紹介します。

冷蔵庫の省エネ性能チェック

電力使用量測定器で冷蔵庫の使用時間・電気料金を測定し、既存の他製品と年間電気代の比較を行いました。



図：省エネ性能別の年間電気代比較

⇒電力使用量測定器で測定した結果、現在使用している冷蔵庫は同程度の容量の製品と比べて消費電力量が大きく、省エネ性能が低いことが分かりました。冷蔵庫の買い替えや使い方の見直しにより、電力使用量の削減につながる可能性があります。

5.電力使用量測定器活用による省エネ推進について（3/4）

- 小笠原村環境課職員による電力使用量測定器の試用結果について紹介します。

設定による省エネ比較

同じ家電でも、設定や使い方によって電気の使われ方は変わります。
設定の違いによる消費電力の差を確認しました。



- ドライヤーで髪を乾燥させる際に…

【“DRY”設定を使用した場合】
消費電力：0.09kWh 使用時間：5分
➡1回あたり2.70円（年間985.5円）

【“TURBO”設定を使用した場合】
消費電力：0.08kWh 使用時間：4分
➡1回あたり2.40円（年間876円）

“TURBO”設定の方が
消費電力は多いが、
使用時間を短縮できるため、
結果として省エネにつながる
ことが分かりました。

- 炊飯器の使い方…

【炊飯のみの場合】
消費電力：0.3kWh
使用時間：1時間19分
➡1回あたり9円

【炊飯＋保温15時間の場合】
消費電力：0.59kWh
使用時間：17時間1分
➡1回あたり17.91円

保温を15時間続けると、
もう1回炊飯するのと同ほ
同じ電力を消費することが
分かりました。



※本測定結果は、村環境課職員による試用の一例であり、特定の機器・条件下での参考値です。機器や使用状況、測定環境等により結果は異なる場合があります。

電力使用量測定器を試用した感想

ちょうど家電を買い替えたタイミ
ングで、新旧で比較すると新しい
製品の方が省エネになっていること
を確認できた。

サーキュレーター
新型（弱～強） 0～10W
旧型（弱～強） 17～45W



ドライヤーの消費電力が
思ったより多く、しっかりタオル
ドライしようと思った。



家電の設定・使い方によって
消費電力がどのくらい違うかを比
較すると省エネにつながりそう。

5.電力使用量測定器活用による省エネ推進について（4/4）

活用までの流れ（予定）

環境課 自然環境係で試用

R8年 5 月 実施済み

試用後の感想、使用感をもとに活用シートや活用方法（案）を作成

第 1 回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議

本日

電力使用量測定器の紹介→構成員にて試用
感想、使用感を基に活用シートや活用方法を検討

第 2 回小笠原村ゼロカーボン推進地域会議

R8年12月頃（予定）

電力使用量測定器活用方針の確認

村民への貸し出し開始

【村民に活用してもらうための取組み例】（現時点案）

- * 活用方法を広報して、希望する村民に貸し出し実施
- * ワークショップなどイベントで使い方を紹介・試用
- * 学校や団体向けに貸し出しを実施

